

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：ひぜん（肥前精神医療センター）精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名： 岩永 英之

住 所：〒 842 - 0192

電話番号：0952 - 52 - 3231 F A X：0952 - 53 - 2864

E - m a i l：hideiwan@gmail.com

■ 専攻医の募集人数：（ 10 ）人

■ 応募方法：

- 提出書類 ・ ・ ・ ・ ①レジデント採用願書（所定の用紙）
②履歴書（市販の用紙）
③大学の卒業証書の写または卒業証明書
④医師免許証写
⑤研修希望コース

書類提出先 問い合わせ先

〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津 160
独立行政法人国立病院機構
肥前精神医療センター 管理課 庶務班長
電話 0952-52-3231 内線 112 FAX0952-53-2864
E-mail：607-contact@mail.hosp.go.jp

病院見学について

当院では研修を希望される医師を対象に病院見学日を設けております。見学を希望される方は遠慮なくご相談下さい。見学は終日です。当院の主な病棟を見ていただく他、現在レジデントとして勤務中の医師から直接話が聞ける時間を設けております。

見学日は、ホームページでご確認ください。

ぜひ一度見学においで下さい。

■ 採用判定方法：

選考方法 ・ ・ ・ ・ 書類審査および面接

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

本プログラムの基幹施設である肥前精神医療センター（「**ひぜん**」）は、基本コンセプトの一つに「**優れた臨床精神科医の育成**」を掲げ、4半世紀にわたり精神科研修に力を入れ、過去10年間で**98人**の後期研修医を輩出してきた、わが国でも有数の精神科臨床の「**専門教育病院**」である。こうした実績が認められ、平成22年には地上3階建ての「**医師養成研修センター**」が設立された。これは、各種講演会、研修会を行う200人収容の大ホール、カンファレンスや症例検討会、研究会を行うセミナールーム、さらに研修室、宿泊施設など最新の設備を備えた精神科医師養成のための専用施設である。



また、この施設には電子会議室が常設されており、ここで行われる研修会、講演会、症例検討会、勉強会等の内容が、リアルタイムで全国の国立病院機構の他14施設（花巻病院、さいがた医療センター、北陸病院、下総精神医療センター、久里浜医療センター、小諸高原病院、天竜病院、東尾張病院、榊原病院、やまと精神医療センター、鳥取医療センター、賀茂精神医療センター、菊池病院、琉球病院）に向けて情報発信される。さらに、他施設で開催される講演会、研修会、症例検討会にも当院の会場から参加、視聴できる双方向の教育システムが構築されている。九州にしながら、東北、関東、中部、沖縄といった異なる文化圏の精神科医療を垣間見ることができ、症例検討会も各領域の専門家が他施設からもコメンテーター、スーパーバイザーとして参加するため、質の高いものになっている。こうした医師養成のための教育環境の整備、充実は、わが国でも類を見ない画期的なものであり、「**ITを用いた多施設共同医師養成システム**」として注目を浴びている。



「ひぜん」では、精神科研修を**病院一丸**となって推し進め、**日々改善**している。日本専門医機構から研修プログラムの骨格が示された際、当院の研修プログラムは既にそれに対応できており、今回提示するプログラムはそこからさらに進化したものとなっている。そのプログラムを評価するのは研修を行う専攻医のみなさんであるが、当院で研修を行った先生から勧められて研修を開始する後期研修医も多数あり、令和5年度には21人の後期研修医が在籍している。毎月卒後臨床研修委員会を行い、後期研修のあり方、問題点を話し合い、各研修医の状況把握を行っている。

その他にも、「ひぜん」の研修には、①豊富な症例②オーダーメイドできる研修内容③全国から集まる仲間④電子カルテの採用といった特徴がある。

①豊富な症例

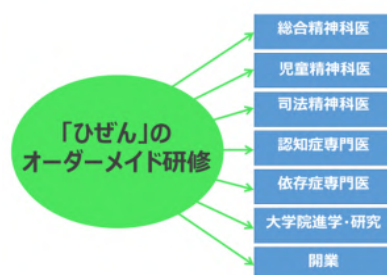
「ひぜん」は、病床数504床で、その中に**精神科救急病棟**、**児童思春期病棟**、**認知症病棟**、**医療観察法病棟**、**嗜癮関連病棟**といった専門病棟がある。当然、症例数も豊富にあり、**専門医取得に必要な症例、指定医取得に必要な症例が「ひぜん」だけで揃う**。外来にも、一般外来に加え、専門外来に多数の患者さんが来院する。デイナイトケア、訪問看護を行っており、**地域精神科医療**の症例も集められる。さらに、新専門医制度開始に伴いプログラムを改変するにあたり、今まで当院だけでは不十分であった**リエゾン研修**を、佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館にて行える体制を整えた。これにより、精神科臨床におけるほぼすべての領域をカバーすることとなった。

同時に、症例を経験することだけに焦点が当たるのではなく、**患者さんに寄り添う姿勢**を大事にしたいと考えている。医療全般において、患者さんに対して bio-psycho-social といった多面的な評価、関与が必要とされており、精神科では特に重要である。そういった視点を大事に思うと、患者さんとのつながりの大切さが実感される。精神科では長い目でみる視点が大変重要であり、また患者さんの**ストレングス**を大事にして寄り添うことの大切さは、長く寄り添わなければわからないものである。そういう意味で、「ひぜん」を中心にした研修では、半年や1年で研修施設を移りながら行うプログラムでは得られないものを得ることができる。



②オーダーメイドできる研修内容

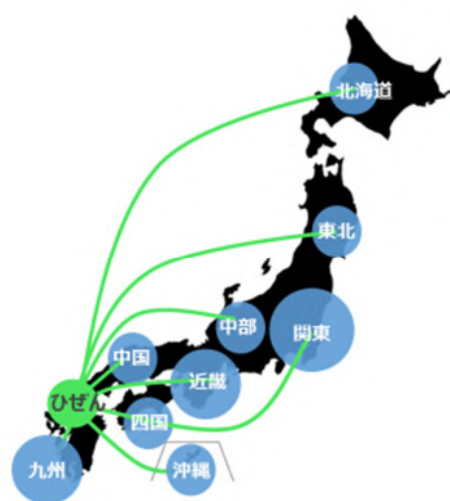
専攻医の皆さんは、専門医の資格を得るために同じ目標をもって研修を行う。しかし、専門医取得後の進路も様々であるし、そもそも専攻医の皆さん一人ひとりが色々な強みや弱点を持っている。従って、年度初めに専攻医一人一人と話し合い、標準的なプログラムをベースに年度ごとの重点課題や目標を個別に決め、それぞれに応じたペース配分を話し合い、プログラム管理委員会の承認を経て決定する。将来、児童、司法、認知症、嗜癖など専門領域に進んだり、臨床研究を行っていったりするために必要な研修をオーダーメイドで提供する。また、半期毎の話し合いでは、専攻医の到達度だけでなく健康状態やさまざまな要望の確認も行い、安心してプログラムを継続できるように全力でサポートする。



③全国から集まる仲間

当院は学閥などがなく、地域性から北部九州の出身者が多いものの、全国から医師が集まっている（過去10年間で31の出身大学、98名）。前述したように、同期となる専攻医も多い。専攻

医は、病院内で研修を通じて切磋琢磨し、診療後は鳥栖、久留米、福岡、佐賀などで行われる飲み会、食事会で親睦を深めている。重症な患者さんを担当して参ってしまいそうな時もあるが、その時救いとなるのは同期や仲間の存在である。そして、「ひぜん」の研修を通して仲間となり、研修後それぞれの道に進んだ後も、ひぜんメーリングリスト（ひぜんだよりの配信、最新情報の提供）を通じて交流したり、学会・出張の際に定期的に会って昔話を楽しんだり情報交換するといったことが可能である。精神科医療は地域で異なる部分も多くあり、一つの地域での常識が別の地域では非常識であることもあり、全国的な医療モデルを考える上では、それぞれの地域のことを意見交換して参考にできることは非常に大事である。全国から来る多くの仲間ができることも、本プログラムの大きな魅力の一つである。



④電子カルテの採用

「ひぜん」では、平成27年5月より電子カルテを導入し、令和5年7月に更新した。電子カルテの作りこみにおいても、専門医研修を強く意識した。電子カルテの項目を入力するだけで、臨床において重要な視点や忘れがちな視点を意識できるように作られている。

電子カルテの導入により、指導医をはじめ他の医師の診療の様子、あるいは多職種の患者さんへの関わりを瞬時に見ることができる。当院のような大型（東京ドーム6個分の敷地面積）医療機関においては大きなメリットである。また、逆に電子カルテ上で専攻医の治療のようすを指導医に見てもらうことができる。ほどよい緊張感はあるだろうが、診療の質を上げるためには必須要素である。

最後に

本プログラムは専門医を目指す皆さん全員が専門医として活躍できるように、指導医全員が研修医ひとりひとりに寄り添いながら、本プログラムで研修できたことを誇りに思えるプログラムとなるように実践していきたいと考えている。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

■ プログラム全体の指導医数： 113 人

■ 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	4 9 8 6	1 6 4 9
F1	2 1 9 3	1 2 1 5
F2	7 1 3 7	4 3 9 2
F3	7 7 8 3	2 0 3 7
F4 F50	6 4 9 7	7 9 7
F4 F7 F8 F9 F50	8 1 6 8	8 4 0
F6	5 4 2	1 5 5
その他	1 4 7 7	3 0 4

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：肥前精神医療センター
- ・施設形態：独立行政法人国立病院機構
- ・院長名：上野 雄文
- ・プログラム統括責任者氏名：上野 雄文
- ・副プログラム統括責任者氏名：岩永 英之
- ・指導責任者氏名：上野 雄文
- ・指導医人数：（ 22 ）人
- ・精神科病床数：（ 404 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	233	123
F1	581	319
F2	697	477
F3	526	176
F4 F50	604	41
F4 F7 F8 F9 F50	1407	101
F6	78	18
その他	631	190

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

乳幼児、児童思春期、成人、老壮年期すべての年代にわたる精神科臨床を対象としている。指導医数も多く、一般臨床は無論のこと、他施設では経験が難しい臨床経験（精神科救急、児童精神医学、嗜癖、司法精神医学、精神鑑定の助手、救急トリアージ、DPAT研修、CVPPP研修）も積むことができる。

B 研修連携施設

① 施設名：佐賀県医療センター好生館

- ・施設形態：地方独立行政法人
- ・館長名：田中 聡也
- ・指導責任者氏名：石井 博修
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 0 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1 3 8	0
F1	2 8	0
F2	5 4	0
F3	9 6	0
F4 F50	1 8 0	0
F4 F7 F8 F9 F50	7 5	0
F6	8	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

総合病院の無床精神科であり、外来及び一般病床、救命救急センターにおける精神科コンサルテーション・リエゾンを行っている。そして近年では、緩和ケアサポートチームの一員として活動し、緩和ケア病棟も含めて、がん患者及びその家族の支援を行うことも重要な臨床の一つとなっている。従って、F4神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害を筆頭として、F0症状性を含む器質性精神障害及びF3気分障害が多数を占めることが特徴的である。このように、当院は総合病院精神医学を広く学ぶための臨床研修プログラムが提供できる。

② 施設名：佐賀大学医学部附属病院

- ・ 施設形態： 国立大学法人
- ・ 院長名：野口 満
- ・ 指導責任者氏名：國武 裕
- ・ 指導医人数：(3) 人
- ・ 精神科病床数：(24) 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	4 4 2	1 1
F1	4 9	8
F2	1 5 8	3 2
F3	2 5 7	5 5
F4 F50	5 6 2	1 4
F4 F7 F8 F9 F50	1 2 1	1
F6	4 9	0
その他	7 6	3

・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当施設の特徴は、大学医学部附属病院であると同時に、県内唯一の精神科病床を有する総合病院でもあり、膠原病、内分泌系疾患、悪性腫瘍などを含む身体合併症の治療、妊婦の出産までの管理など幅広く精神科患者を当科は受け入れている。そのため、当科では他科との連携を大変重視しており、常時2名のコンサルテーション・リエゾン専任医師を配置し、他科と連携して診療を継続している。また、神経内科と合同で認知症疾患医療センターを運営しており、地域在住高齢者の精神的健康を維持すべく、うつ病や認知症などの診断・治療、さらに多職種連携、家族支援を重視し、高齢者医療に日々取り組んでいる。

③ 施設名：九州大学病院

・施設形態：国立大学法人

・院長名：中村 雅史

・科長名：中尾 智博

・指導責任者氏名：村山 桂太郎

・指導医人数：（ 10 ）人

・精神科病床数：（ 79 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1 6 5	1 1
F1	1 9	3
F2	3 2 1	4 1
F3	6 4 7	8 3
F4 F50	6 4 8	4 8
F4 F7 F8 F9 F50	1 0 7 9	6 1
F6	4	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

1275床を有する大規模な大学病院であり、精神科も79床という大学病院として国内最大規模の病棟を有している。高度専門医療機関として、主に難治性の症例を中心に、統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などの治療にあたっている。また、児童思春期、認知症、身体合併症、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験できることも特徴である。精神療法の習得にも力を注いでおり、認知行動療法、精神分析・精神力動、森田療法のカンファレンス、セミナーを定期的に行っている。

④ 施設名：熊本大学病院

- ・ 施設形態：国立大学法人
- ・ 院長名：平井 俊範
- ・ 科長名：竹林 実
- ・ 指導責任者氏名：藤瀬 昇
- ・ 指導医人数：（ 6 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 50 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	9 0 7	1 1 4
F1	2 8	0
F2	1 9 1	1 6
F3	8 1 1	4 1
F4 F50	5 5 9	2 2
F4 F7 F8 F9 F50	8 2 6	3 3
F6	1 4	1
その他	2 0	1 1

・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

熊本県から、認知症疾患医療センター（基幹型）、高次脳機能障害支援センターおよび発達障害医療センターの指定を受けており、各種認知症および高次脳機能障害、老年期の気分障害、児童・思春期のそれぞれ専門外来を開設して診療を行っている。14名の常勤コメディカルスタッフ（心理士3名、精神保健福祉士6名、作業療法士3名、認知症看護認定看護師1名、など）と共に充実した精神科チーム医療を展開しているのも特徴の1つである。県内唯一の大学病院であり、急性期・慢性期の精神病性障害、気分障害、認知症などの器質性精神障害、神経症性障害、児童・思春期の精神疾患、コンサルテーション・リエゾン精神医療など豊富な症例が経験でき、とくに老年期の精神障害について、外来・入院ともに豊富な症例を有している。

⑤ 施設名：福岡大学病院

- ・ 施設形態：私立大学病院
- ・ 院長名：三浦 伸一郎
- ・ 科長名：堀 輝
- ・ 指導責任者氏名：飯田 仁志
- ・ 指導医人数：（ 6 ）人
- ・ 精神科病床数：（ 60 ）床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1 5 3	1 8
F1	7	9
F2	7 7	4 8
F3	1 0 3	5 3
F4 F50	2 1 6	5 6
F4 F7 F8 F9 F50	5 2	4 1
F6	3 9	1
その他	1 4 9	0

・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福岡大学病院は伝統的に精神分析的療法などの精神療法を学ぶ環境が充実しており、また大学病院では初めて認可されたデイケア施設を有するなど、地域精神医療に根ざした患者中心の臨床精神医療を徹底している。

また大学病院における精神神経科の役割を果たすために、身体合併症患者のリエゾンコンサルテーション、緩和ケアチームや認知症疾患センターへの参画、救命救急センターと協力した自殺企図者への介入、産婦人科や小児科と協同した周産期母子、小児や児童思春期（虐待児とその家族、発達障害、ADHD など）への対応といった幅広い治療活動を行っている。各々の興味のある分野があれば、より重点的にその領域に関わることが出来る。研究機関でもあるため、研究や学会発表についても指導を受けること可能である。

⑥ 施設名：国立病院機構賀茂精神医療センター

・施設形態：独立行政法人国立病院機構

・院長名：山口 博之

・指導責任者氏名：山口 博之

・指導医人数：（ 4 ）人

・精神科病床数：（ 330 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	21	38
F1	7	11
F2	108	516
F3	50	149
F4 F50	11	61
F4 F7 F8 F9 F50	9	122
F6	3	52
その他	165	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

広島県の中核病院として精神科救急を実践し、保健所と連携し訪問看護を実施し、精神科救急・法と精神医学等専門医取得の研修ができる明確性を有している。指導医は、精神科リハビリテーション、地域精神医学、精神科救急、法と精神医学に高い専門性を持っており、この指導医の指導の下、リハビリテーション症例、精神科救急症例、クロザリルの処方、医療観察法入院医療の実際や精神鑑定の実際を経験できる。

⑦ 施設名：国立病院機構さいがた医療センター

・施設形態：独立行政法人国立病院機構

・院長名：佐久間 寛之

・指導責任者氏名：佐久間 寛之

・指導医人数：（ 3 ）人

・精神科病床数：（ 134 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	6	0
F1	11	0
F2	699	83
F3	333	9
F4 F50	67	0
F4 F7 F8 F9 F50	24	0
F6	7	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、独立行政法人国立病院機構が運営する病院であり、稼働病床 296 床（精神：134 床 [うち医療観察法 34 床]、精神内科 80 床、重症心身障害児（者）：82 床）で、精神疾患と神経内科系疾患の治療を同時に行う必要がある患者も受け入れ可能である。

指導医は 2 名体制で、司法精神医学、アディクション系全般の研鑽、精神科救急、精神科デイケアなどの幅広い精神科臨床の経験を積むことができる。

今後はクロザピン治療、修正型電気けいれん療法を開始する他、精神医学、地域医療に貢献する地域の医療人育成にも力を注ぐこととしている。

⑧ 施設名：医療法人社団翠会 八幡厚生病院

・施設形態：私的単科精神科病院

・院長名：三浦 智史

・指導責任者氏名：三浦 智史

・指導医人数：（ 5 ）人

・精神科病床数：（ 410 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	201	157
F1	252	129
F2	540	238
F3	309	246
F4 F50	132	95
F4 F7 F8 F9 F50	78	44
F6	6	25
その他	0	15

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

北九州市内の精神科病院の中では、410床と最も病床数が多く、各種専門医療、地域精神医療に積極的に取り組んでいる。96床のスーパー救急病棟を有し、福岡県精神科救急輪番病院や応急指定病院でもあり、令和2年度の当院措置入院数15件、緊急措置入院数8件、応急入院20件と多くの救急症例を受け入れており、精神科救急症例を豊富に経験することができる。他に、心身医療病棟（ストレスケア、依存症、摂食障害）、認知症治療病棟、合併症病棟と総数410床の精神病床を有し、精神科臨床を幅広く経験できる。また、医療観察法の指定通院先であり、司法精神医学についての研修も可能である。救急・急性期の充実化と退院後の地域生活支援体制として、地域に訪問看護ステーションと相談支援センターを機能させている。デイケア、デイサービスなどの社会復帰関連施設を持ち、訪問看護24時間電話相談体制で支援している。

⑨ 施設名：医療法人 慈光会 若久病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：門司 晃
- ・指導責任者氏名：門司 晃
- ・指導医人数：（ 7 ）人
- ・精神科病床数：（ 370 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	19	22
F1	9	2
F2	600	339
F3	381	81
F4 F50	176	18
F4 F7 F8 F9 F50	73	9
F6	7	1
その他	37	7

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は薬物療法のみならず、精神療法、行動療法、音楽療法、SST等の経験と実績を積み重ねてきた。更に、歴史的に作業療法、デイ・ケア等、精神科リハビリテーションに力を注いで来た。

また、精神保健福祉士による、社会資源の活用等、患者さんの安定した、生活を維持していく営みを続けている。

従って、外来治療、入院治療、そしてリハビリテーション、退院後の外来治療、訪問看護と一連の流れの中で精神医学そして、精神科臨床を学べる場であると自負している。

加えて、臨床を大切にしている医師が多いこと、指導医の多いこと、医師同士の距離が近いこともあって、臨床や精神医学に関する論議、批判が日常的に行われ、自然にその輪に入れる雰囲気がある。

⑩ 施設名：医療法人格心会 蒲池病院

・施設形態：私立病院

・院長名：實松 寛晋

・指導責任者氏名：實松 寛晋

・指導医人数：（ 1 ）人

・精神科病床数：（ 148 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	29	36
F1	11	14
F2	95	106
F3	102	27
F4 F50	188	14
F4 F7 F8 F9 F50	508	25
F6	3	3
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

慢性期、急性期を含む精神科全般を対象とするが、特に児童思春期医療（外来）においては、専用施設で多職種チームにより専門的な診療及びリハビリテーションを行っている。

また、現在は認知症を含む高齢者の精神疾患の入院受け入れや、司法精神医療（指定通院）も行っている。

⑪ 施設名：医療法人せいわ会みなかぜ病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：梶谷 康介
- ・指導責任者氏名：梶谷 康介
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 205 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	28	36
F1	5	12
F2	115	174
F3	115	16
F4 F50	118	9
F4 F7 F8 F9 F50	152	14
F6	10	3
その他	27	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は糸島市の住宅街に立地する 205 床の病床数を有する精神科単科病院である。日々、地域に根差した精神科医療を行っており、最近では、気分障害、神経症性障害や認知症の患者、近隣の一般病院や総合病院からの紹介で症状性を含む器質性精神障害などの外来・入院患者が増えてきている。また、当院では長期にわたり入院している統合失調症患者も多く、現在、これらの患者に対し社会復帰プログラムを作成し作業療法士、精神保健福祉士、医師や看護師を中心としたメンバーで実施し、地域とも連携を取りながら地域移行支援を行い一定の実績を残している。このように、急性期から慢性期の社会復帰まで幅広い臨床経験を積めることが当院の特徴である。

⑫ 施設名：医療法人財団友朋会 嬉野温泉病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：中川 龍治
- ・指導責任者氏名：奥 栄作
- ・指導医人数：（ 7 ）人
- ・精神科病床数：（ 604 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	605	415
F1	3	1
F2	298	240
F3	540	54
F4 F50	773	3
F4 F7 F8 F9 F50	972	17
F6	15	1
その他	22	25

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、佐賀県の西側に位置し、全病床数 759 床、精神科病床 604 床を有している。佐賀県西部地区だけでなく、隣県の長崎県からも通院、入院患者を受け入れている。特色として開院以来、統合失調症の社会復帰には力を入れており、精神科デイケアは全国でも早期に開所し、社会復帰施設、精神科グループホーム、就労支援施設など充実している。認知症治療に関しては認知症疾患医療センターを有しており、地域で研修会など開いて啓蒙活動を行っている。児童思春期外来にて不登校や自閉スペクトラム症などの治療にもあたっている。他に、うつ病の仕事復帰のためのリワークプログラム、長年積み上げてきた精神障害者に対する芸術療法など特色豊かである。

⑬ 施設名： 雁の巣病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：熊谷 雅之
- ・指導医責任者：栗田 晋
- ・指導医人数：（ 9 ）人
- ・精神科病床数：（ 264 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1 8 2	1 1 9
F1	5 7 3	2 4 9
F2	6 2 7	2 9 1
F3	6 3 8	2 7 5
F4 F50	2 7 3	5 5
F4 F7 F8 F9 F50	8 1	2 9
F6	5 6	1 3
その他	2 3 0	1 1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

福岡市内唯一の精神科救急病棟を3病棟（144床）有し、24時間365日あらゆる救急への対応を行なっている。措置入院や応急入院の症例も豊富である。治療にあたっては、mECTやクロザピンも積極的に活用している。またアルコールや薬物、ギャンブル依存等の治療に長年取り組んでおり、各種プログラムが充実しているほか、福岡県の飲酒運転に関わるプログラム等において行政との協力も密に行っている。

また、内村英幸医師（肥前精神医療センター名誉院長）による症例検討会を月2回開催している。

⑭ 施設名：神野病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：石丸 正吾
- ・指導医責任者：石丸 正吾
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 195 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	322	80
F1	27	24
F2	192	210
F3	219	37
F4 F50	194	98
F4 F7 F8 F9 F50	10	0
F6	2	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は佐賀県の県庁所在地である佐賀市の市街地に病院を構えた、地域密着型の精神科病院である。また精神科デイケア、訪問看護ステーション、相談支援事業所、グループホームを併せて構えており地域医療のケアの充実を図っている。指導医は2名体制で、器質性精神障害、気分障害、身体合併症やリエゾン・コンサルテーションなど多彩な症例に1件1件丁寧に取り組むことができる。

また、今後は急性期病床を導入し多職種連携で地域医療の発展に取り組むこととしている。

⑮ 施設名：国立病院機構 九州医療センター

- ・施設形態：総合病院
- ・院長名：岩崎 浩己
- ・指導医責任者：石川 謙介
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 50 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	700	70
F1	60	25
F2	500	120
F3	800	70
F4 F50	60	3
F4 F7 F8 F9 F50	1180	42
F6	120	3
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、702床を有する総合病院であり、身体合併症を併存する精神疾患を中心に多彩な疾患、症例を経験することが可能である。50床の精神科病棟を有しており、身体合併症治療に加え、うつ病、認知症、思春期症例を含む多様な精神疾患の入院治療の実践経験を積むことができる。

⑩ 施設名：福岡県立精神医療センター太宰府病院

- ・施設形態：県立病院
- ・院長名：小嶋 享二
- ・指導医責任者：小嶋 享二
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 300 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	22	39
F1	62	103
F2	40	320
F3	64	189
F4 F50	74	51
F4 F7 F8 F9 F50	107	92
F6	3	8
その他	8	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

救急・急性期の治療に力を入れており、24時間・365日体制で臨んでいる。

クロザピンの処方やmETCも実施しており、早期の退院・社会復帰を目指している。

依存症（アルコール・薬物・ギャンブル）の治療も行っており、多くの多様な患者が受診してきて豊富な経験を積むことができる。

⑪ 施設名：医療法人光風会 光風会病院

- ・施設形態：私立病院
- ・院長名：福岡 裕行
- ・指導医責任者：堤 あき子
- ・指導医人数：（ １ ）人
- ・精神科病床数：（ １ ７ ４ ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	6 9	5 3
F1	9	3
F2	1 8 4	1 1 5
F3	4 4 6	5 2
F4 F50	6 3 8	3 8
F4 F7 F8 F9 F50	4 9	1 8
F6	8	5
その他	8	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は佐賀県の東部に位置する１７４床（精神科一般病棟１１４床・精神療養病棟６０床）の精神科病院である。

精神科医療のトータルケアを目指し、ストレスケア病床をはじめ、入院治療から退院後のサポートとして、デイケア、訪問看護ステーション、宿泊型自立訓練（生活訓練）事業所、就労継続支援Ｂ型事業所、グループホーム等を開設し、多職種の医療チームや地域の事業所と連携をはかり支援を行っている。

医療観察法の指定通院医療機関として対象者の受け入れを行っており、心理教育や音楽療法、ハローワークとの就労支援事業にも積極的に取り組んでいる。

⑩ 施設名：国立病院機構 小倉医療センター

- ・施設形態：総合病院
- ・院長名：山下 博徳
- ・指導医責任者：磯村 周一
- ・指導医人数：（ １ ）人
- ・精神科病床数：（ ５０ ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	３４８	４２
F1	４０	３６
F2	２０８	８４
F3	２８４	１００
F4 F50	２２０	２０
F4 F7 F8 F9 F50	１７	３
F6	６６	７
その他	５０	１０

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、４００床、１８診療科を有する総合病院であり、リエゾン・コンサルテーション症例も豊富に経験することが可能である。緩和ケアチームに参加し、精神腫瘍学について臨床経験を踏まえて学習することもできる。

５０床の精神科病棟を有しており、政策医療としての身体合併症治療に加え、思春期症例を含む多様な精神疾患の入院治療も経験できる。修正電気けいれん療法も積極的に行っている。

当院は北九州ものわすれ外来事業協力医療機関であり、認知症の診断、治療、マネジメントについても実践的な経験を積むことが可能である。

⑭ 施設名：独立行政法人国立病院機構 琉球病院

・施設形態：独立行政法人国立病院機構

・院長名：福治 康秀

・指導責任者氏名：福治 康秀

・指導医人数：（ 5 ）人

・精神科病床数：（ 326 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	82	57
F1	276	192
F2	304	393
F3	69	11
F4 F50	207	13
F4 F7 F8 F9 F50	673	37
F6	20	0
その他	3	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

琉球病院では、児童・思春期精神科、アルコール・薬物依存症、治療抵抗性精神疾患性治療、認知症治療等、各ライフステージに合わせた専門治療が可能である。また、医療観察法病棟を有し、精神鑑定も含め司法精神医学も学ぶことができる。

精神科救急・急性期医療は県の中北部地域の精神科救急基幹病院として認定され、多くの精神科救急入院患者を受け入れている。地域精神医療も積極的に展開し、訪問看護は年間6,500件を超え、地域関係者とのケア会議も多く開催し、当事者や家族を行政機関・地域支援者と協働し支えている。

⑳ 施設名：長崎県精神医療センター

- ・施設形態：長崎県病院企業団
- ・院長名：大塚 俊宏
- ・指導責任者氏名：松坂 雄亮
- ・指導医人数：（ 4 ）人
- ・精神科病床数：（ 139 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	5 4	1 7
F1	4 0	1 4
F2	7 2 5	2 5 1
F3	6 2 5	1 9 8
F4 F50	3 7 4	8 5
F4 F7 F8 F9 F50	6 2 0	1 3 3
F6	7	4
その他	4 6	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当センターは平成 19 年 4 月、全国で 6 番目、九州では初の精神科救急医療センターに指定されました。平成 20 年には、医療観察法病棟を設置し、現在、精神科救急病棟、児童思春期病棟、包括治療病棟、医療観察法病棟の 4 病棟 139 床で、長崎県の地域精神医療の向上に寄与するよう努めています。また、難治性、薬物抵抗性の患者さんの治療にも力を入れており、平成 25 年には修正型電気けいれん療法（m-ECT）のための ECT センターを設置するとともに、クロザピンによる薬物治療にも積極的に取り組んでおります。

②① 施設名：医療法人至誠会 帆秋病院

- ・施設形態：精神科病院
- ・院長名：帆秋 伸彦
- ・指導責任者氏名：帆秋 伸彦
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 446 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	240	127
F1	88	36
F2	339	184
F3	291	52
F4 F50	222	50
F4 F7 F8 F9 F50	28	0
F6	6	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は446床の精神科病院であり、平成27年4月に移転・新築し、体育館、グループホーム、保育園を併設している。また、100床の介護老人保健施設を併設している。移転の際に、電子カルテを導入し、3テスラのMRI、16列マルチヘリカルCT、脳波計、高照度光療法室などを完備している。

常勤医は12名おり、そのうち精神保健指定医は7名、内科医が3名いる。また、日本精神神経学会 専門医・指導医、日本老年精神医学会認定専門医・指導医、日本精神科病院協会認定 指導医、日本医師会認定 産業医、日本医師会認定 健康スポーツ医、ICLS プロバイダー、認知症かかりつけ医、認知症サポート医、発達障害かかりつけ医、総合内科専門医、日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医・指導医、インфекションコントロールドクターが在籍してお

り、研修指導体制を整えている。また、職員研修として、院内研修会を頻回に開催しており、また外部研修会にも積極的に参加し、各職種の資質向上を図っている。医療連携として、大分大学医学部附属病院、大分県立病院、大分赤十字病院、アルメイダ病院、大分中村病院等と相互医療の協力体制を整えている。

当院の特徴として、統合失調症、うつ病、躁うつ病、神経症性障害、認知症、アルコール依存症などの診療に幅広く力を入れている。統合失調症に関しては、持効性注射剤（LAI）の使用頻度が高く、難治性の統合失調症にクロザピンを処方している。また発達障害の中でも ADHD に関して、メチルフェニデート徐放製剤も処方できる。アルコール依存症に関しては、大分県のアルコール依存症専門医療機関として認定され、久里浜式認知行動療法や集団精神療法を行っている（重度アルコール依存症管理加算）。また、内科医と連携し身体合併症治療も行っている（身体合併症管理加算）。措置入院や応急入院の受け入れも積極的に行っている。毎朝、多職種によるミーティングやカンファレンスにて症例検討を行っている。平成 29 年 12 月に就労継続支援 B 型サニーファーム、相談支援事業所チャレンジを開設し、社会復帰の支援にも取り組んでいる。

② 施設名：独立行政法人国立病院機構 熊本医療センター 精神科

・施設形態：独立行政法人国立病院機構

・院長名：高橋 毅

・科長名：橋本 聡

・指導責任者氏名：橋本 聡

・指導医人数：（ 1 ）人

・精神科病床数：（ 50 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	20	64
F1	8	25
F2	65	114
F3	77	63
F4 F50	1	3
F4 F7 F8 F9 F50	27	18
F6	11	8
その他	5	21

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は精神病床 50 床を有する総合病院であり、当院の精神科の特徴としては他科との連携を密にして精神障害と身体障害を同時に有する合併症患者の入院治療を行っております。また、当院が救急医療に積極的に取り組んでいることから、精神科関連の救急患者様についても対応しております。さらに、最近増加傾向にある、自殺企図および自傷行為に対しても、身体的対応が一段落したあとに精神科的に介入することで再発の防止や問題の解決に当たっております。また、一般外来での診療につきまして、うつ病をはじめとして精神疾患の外来治療を行っております。また、院外の病医院および老健施設などから認知症をはじめとして多くの患者様のご紹介をいただいております。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

1 年目：基礎固め

まず、面接の基本を指導医から学び、患者さんの苦悩に共感し**寄り添う姿勢**を身につける。病気の症状や問題点を把握し**精神医学用語を用いて記述する力**をつける一方、患者さんの健康的な側面、**ストレングスの把握**に努める。**多職種と協働**する姿勢も学ぶ。

入院患者を中心に受け持つが、救急病棟では症例指導医の指導を受けながら、主治医として統合失調症、気分障害の患者さんを中心に受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。行動制限の手続きなど、基本的な法律の知識も学習する。救急病棟では、週1-2回の回診に参加して、上記を学ぶ。慢性期の病棟の患者さんを5-10人程度受け持ち、その経過から精神科医療の歴史を学んだり、長期入院者の精神科リハビリテーションの実践を学んだり、新しい治療を導入するなどの試みを行ったりする。mECTを行う患者さんを担当し、適応、手技などを習得する。

外来では、指導医の新患診察の予診についたり、陪席したりすることによって、面接の技法、患者との関係の構築の仕方、基本的な心理検査の評価などについて学習する。受け持った入院患者が外来に移行した場合は、指導医の指導を受けながら担当し、退院後の経過や地域生活を送るうえでの必要な知識や方法を多職種からも学ぶ。

当直は指導医とともに月2-3回行い、救急対応、法律の知識、医療安全などを学ぶ。

デイケア、集団で行う心理プログラムを見学し学ぶ。

退院前訪問看護や訪問看護に同行し、患者さんの自宅での様子や地域との関わりについても学ぶ。

地域の保健師などとの患者さんについてのケア会議などに、指導医とともに参加する。

知識の習得においては、毎週テレビ会議システムを用いて行われる講義（国立病院機構精神医学講義）により、専門医取得に必要な基礎から応用までを学ぶ。

院内のカンファレンスで発表し討論する。

2 年目：幅を広げる

準ローテーションとして、認知症、児童、嗜癖の症例を4-6カ月ずつ集中的に、入院患者を中心に経験する。救急病棟において症例指導医の指導を受けながら、主治医として重症度の高い統合失調症、気分障害に加え、神経症性障害などの症例を経験する。

外来では、指導医に相談しながら週1回再来患者の診察にあたる。

指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的療法等の基本的考え方と技法を学ぶ。

論文作成や学会発表のための基礎知識について学び、地方会等で発表する。

3 年目：深く学ぶ

2年間の経験を踏まえて、指導医から**自立して**診療できるようにする。

準ローテーションのうち、残っている分野があれば経験する。さらに、佐賀県医療センター好生館などにおいて、**リエゾン症例**を経験する。

他の地域での精神科医療を経験したい者は、広島県の賀茂精神医療センターや新潟県のさいがた医療センター、沖縄県の琉球病院、北九州市の八幡厚生病院での研修も可能である。

将来に向けて、児童精神医学、司法精神医学、嗜癪精神医学、認知症などの専門研修を3年目から行うことも可能である。但し、2年目までにその他の症例等を修了している必要がある。また、社会人大学院と並行することも可能である。

救急病棟などでは、より重度な症例、パーソナリティ障害の治療についても経験する。刑事訴訟法による**精神鑑定助手**や医療観察法鑑定の主治医を担当する。

認知行動療法や力動的療法等の精神療法を上級者の指導の下に実践する。

心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。

一般人を対象としたメンタルヘルスなどの講演や看護学生への精神医学の講義を行う。

学会の総会や全国規模の研究会などで症例発表し、論文作成を行う。

臨床研究・臨床治験に参加する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

3) 個別項目について

倫理性・社会性

精神障碍(がい)者への偏見は未だにあり、それは医療者にも根強くある。また、精神障碍者は現実検討能力が欠如したり、著しく低下した状態に陥ることがあり、それに対してやむをえず強制的な医療を行う必要がある。この際、**精神障害者の人権を守る姿勢**を習得することは、精神科を学ぶ上で極めて重要である。

指導医から日常の診療を通じて、**倫理的な配慮**への指導が行われ、**精神保健福祉法の遵守**についても指導が行われる。その他、基幹施設では、国立病院機構精神医学講義にて倫理についての講義を行い、年1回病院職員全員を対象にした倫理に関する講演会、年に2回行われる行動制限最小化委員会主催の研修会に参加してもらう。

倫理性は、症例を経験する前に身につけるべき前提である。従って、このことを学ぶ姿勢がない専攻医に対しては、厳しく指導を行う。

精神科医療では、精神科医一人でできることは限られており、院内、院外を問わず、多くの専門家と協働して患者さんの治療にあたる。患者さんの地域の中に飛び込んでいく必要もあり、そこでは**高い社会性**が要求される。

年度初めには、院内のコメディカルと顔合わせを行い、国立病院機構精神医学講義では各職種の専門性などの講義を聞く。指導医とともに院内の多職種ミーティングに参加し、ミーティングの進め方や連携を学ぶ。さらに、地域ネットワークミーティングなどにも指導医と

ともに参加し、行政職や地域で活躍する専門職との連携を通して、常識ある態度や素養といった社会性を習得し、高めていく。

連携施設である総合病院では、リエゾン・コンサルテーション症例を通して身体科医師との連携において、社会性を習得する。

① 学問的姿勢

精神医学は科学的根拠が未解明な部分が多く、現在標準的に行われていることが数年後には標準ではなくなっていることもある。従って、患者さんを漫然とみるのではなく、患者さんから発信されるメッセージを鋭敏に読み取りながら、**創造する姿勢**が必要である。創造とは言っても、根拠の全くない医療はデタラメであるので、現在の標準的な医療を学習しておく必要がある。

基幹施設では、毎週国立病院機構精神医学講義が行われ、標準的な精神科医療の基本を学べる。毎週行われる複数の回診、症例検討会、モーニングカンファレンスでは、実際の症例を通して、標準的な医療、創造的な医療を学ぶことができる。基幹施設で行われる、肥前セミナー、先端精神医学セミナー、様々な全国研修会では、最新の知見を得ることができる。学会や院外で行われる各種勉強会への参加は、患者さんの診療を妨げない程度に推奨している。

② コアコンピテンシーの習得

基幹施設では、**医療安全**、**感染管理**、**医療倫理**などについての講演会がそれぞれ年1回以上開催され、専攻医もそれに出席する。日本精神神経学会や関連学会の学術集会や各種研修会、セミナー等に参加して医療安全、感染管理、医療倫理、医師として身につけるべき態度などについて履修し、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)を高める機会をもうける。法と医学の関係性については日々の臨床の中から、いろいろな入院形態や、行動制限の事例などを経験することで学んでいく。診断書、証明書、医療保護入院者の入院届、定期病状報告書、死亡診断書、その他各種の法的書類の記入法、法的な意味について理解し記載できるようになる。行動制限最小化委員会主催の研修会にも参加し学ぶ。チーム医療の必要性について地域活動を通して学習する。また院内では、多職種ミーティング、集団療法や作業療法などを経験することで他のメディカルスタッフと協働して診療にあたる。自らの診療技術、態度が後輩の模範となり、また形成的指導が実践できるように、学生や初期研修医および後輩専攻医を指導医とともに患者を受け持ち、チーム医療の一員として後輩医師の教育・指導も担う。

③ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

経験した症例の中で特徴のある症例については、九州精神神経学会学術総会、佐賀県精神科集談会など、地方会等において発表を行う。さらに興味のある症例については、複数の症例を集めたりするなどする。その後、仮説を立ててコホート研究などにつなげていく。

また、基幹施設の臨床研究部では、1つ以上の研究室に所属し、臨床研究を行う。それらで得られた知見は、国内外の学会（日本精神神経学会学術総会など）、研究会で発表を行い、学会

誌への投稿を行う。

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の研究費で行われる全国的な研究班に当院の常勤医師も参加しており、その手伝いを通じて大規模な研究の一端を担う他、最先端の研究情報に触れる機会を持つことができる。

④ 自己学習

自己学習に必要な図書、医学雑誌は、基幹施設の図書室、研修医室に用意している。各部屋に1台以上院内端末を整備しインターネットに接続している。個人端末における無線LAN利用は、届け出ることにより可能である。文献検索は、基幹施設ではメディカルオンライン、NH0共同利用サービス（PriQuest Medical Library）を利用可能である。

週に1日民間精神科病院（自己学習施設）での研修を行う。日本では、精神科病院の8割以上が民間精神科病院であり、そこでの医療を体験することで現在の日本の標準的な精神科医療を経験することができる。自己学習施設で体験することで、多くの精神障害者がどのような治療を受けたり、処遇を受けたりしているかを学び、今後の精神科医療がどうあるべきか、どのようなことを解明すべきかなどを考える。自己学習施設で行われている優れた医療を基幹施設や連携施設での研修に生かしたり、また地域連携を学んだりすることができる。

自己学習施設での評価は、6カ月に1回基幹施設の担当指導医が、自己学習施設の担当医との面談などをとって確実にを行う。

4) ローテーションモデル

1年目：肥前精神医療センター

精神科救急病棟に2-5名の急性期の患者さんを受け持つ。慢性期病棟を2病棟受け持ち、6-10名の患者さんを受け持つ。救急病棟の算定基準に合わない患者さんを他の病棟で受け持つこともある。

外来は、入院中に受け持った患者さんを外来でフォローアップする。新患の予診を毎週とる。発達障害診断外来の予診、結果説明の陪席を行う。

3-6カ月佐賀県医療センター好生館または佐賀大学医学部附属病院をはじめとする大学病院にてリエンゾン研修を行う。

2年目：肥前精神医療センター（準ローテーション制）

精神科救急病棟での急性期治療とその他の1病棟に加えて、認知症・高次脳機能障害関連分野、嗜癇関連分野、児童思春期関連分野を4-6か月間に区切って行う。

3年目：児童精神医学、司法精神医学、嗜癇関連精神医学、認知症・高次脳機能障害の専門分野の研修を重点的に行うことが可能である。準ローテーションを終了していない者は、継続して行う。

他地域や民間病院での精神医療を学ぶために、NH0 賀茂精神医療センター（広島県）、NH0 さいがた医療センター（新潟県）、八幡厚生病院（福岡県北九州市）などでの研修も可能である。

また、九州大学、佐賀大学などの**社会人大学院**に進学し、当院で臨床や研究を行うことも可能である。

肥前精神医療センター精神科専門研修プログラムローテーション例

1年目	2年目	3年目
-----	-----	-----

ひぜん標準コース：肥前精神医療センターでの研修の醍醐味を最も味わえるプログラム。多くのレジデントがこのプログラムを受けて羽ばたいた。リエゾン研修の期間は3ヶ月、研修先は佐賀県医療センター好生館や佐賀大学病院で行う。

肥前精神医療センター		肥前精神医療センター			
総合 ※研修期間：9ヵ月	佐賀県医療センター好生館 ※研修期間：3ヵ月	認知症 ※研修期間：6ヵ月	嗜癪 ※研修期間：6ヵ月	児童 ※研修期間：6ヵ月	希望する専門分野 (認知症・嗜癪・児童・司法いずれか1つ) ※研修期間：6ヵ月

ひぜん精神科専門コース：精神科の中でも将来の専門を決めているレジデントに好評なプログラム。3年目に研修する専門分野は、認知症、嗜癪、児童から選択する。1年目に研修するリエゾン、各専門分野の研修期間は相談に応じる。但し、専門研修に進むためには、2年目までにその他の症例等を修了していることが条件である。

肥前精神医療センター		肥前精神医療センター		
総合 ※研修期間：9ヵ月	佐賀県医療センター好生館 ※研修期間：3ヵ月	嗜癪 ※研修期間：6ヵ月	認知症 ※研修期間：6ヵ月	児童 ※研修期間：1年

ひぜん司法精神医学専門コース：精神医学の中で、NHOでの養成を大きく期待されている司法精神医学に進むプログラム。

肥前精神医療センター		肥前精神医療センター			
総合 ※研修期間：9ヵ月	佐賀県医療センター好生館 ※研修期間：3ヵ月	認知症 ※研修期間：4ヵ月	嗜癪 ※研修期間：4ヵ月	児童 ※研修期間：4ヵ月	司法 ※研修期間：1年

ひぜん臨床研究コース：将来研究をしたい専攻医向けのプログラム。社会人大学院は、九州大学をはじめ、受け入れが可能で当院での勤務が可能であれば、どの大学でもよい。

肥前精神医療センター		肥前精神医療センター			
総合 ※研修期間：9ヵ月	佐賀県医療センター好生館 ※研修期間：3ヵ月	認知症 ※研修期間：4ヵ月	嗜癪 ※研修期間：4ヵ月	児童 ※研修期間：4ヵ月	社会人大学院 ※研修期間：1年

他施設連携コース：「ひぜん」だけでなく、他施設(他の地域、民間病院、大学病院)も経験したい人向けのコース。
※最低6ヶ月間は必ず肥前精神医療センターにて研修を行うことを条件とする。

例1

肥前精神医療センター				大学精神科 (大学精神科一覧より1施設選択) ※研修期間：1年
総合 ※研修期間：1年	認知症 ※研修期間：4ヵ月	嗜癪関連 ※研修期間：4ヵ月	児童 ※研修期間：4ヵ月	

例2

肥前精神医療センター ※研修期間：1年	大学精神科 (大学精神科一覧より1施設選択) ※研修期間：1年	NHOまたは私立精神科病院 (NHOまたは私立精神科病院一覧より1施設選択) ※研修期間：1年
------------------------	---------------------------------------	---

例3

肥前精神医療センター ※研修期間：1年6ヵ月	地域研修施設 (NHOさいがた医療センターまたはNHO賀茂精神医療センター) ※研修期間：1年6ヵ月
---------------------------	--

※いずれのコースにおいても、他の専攻医との兼ね合いで、ローテーション時期が前後することがあります。

連携施設一覧	大学精神科	佐賀大学医学部付属病院、九州大学病院、熊本大学病院、福岡大学病院
	NHOまたは私立精神科病院	賀茂精神医療センター、さいがた医療センター、九州医療センター、小倉医療センター、琉球病院、熊本医療センター、太宰府病院、長崎県精神医療センター、八幡厚生病院、若久病院、蒲池病院、みなかぜ病院、嬉野温泉病院、雁の巣病院、神野病院、光風会病院、帆秋病院

※地域連携プログラムでの採用は地域研修施設（NHO さいがた医療センター（新潟県）、NHO 賀茂精神医療センター（広島県））にて **1年半以上** 研修を行うことを条件とする。

5) 研修の週間・年間計画

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	児童 G モーニング カンファレンス 8:30～9:00	外勤日	病棟診療	外来 (予診+陪席) ↓ 入院	モーニング カンファレンス 8:30～9:00
	院長回診** 10:00～12:00			外来(再診)	
午後	病棟診療		脳波判読会 13:00～13:30	病棟診療	国立病院機構 精神医学講義 13:15～14:00
			医局会 13:30～14:00		病棟診療
	教育回診 15:00～17:30		新入院報告会 14:00～14:30		
夜間			チームミーティング 又は 症例検討会* 14:30～15:00		
				当直 17:30～翌朝 8:30	

*月に1度は症例検討会

**担当病棟の回診に参加

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

また、当院は職員と 36 協定を締結している。

国立病院機構精神医学講義（基礎講座、応用講座）

当院では、毎週金曜日 13:15～14:00 に、約 1 時間「IT を用いた多施設共同医師養成システム」の研修プログラムとして参加 15 施設の指導医が、交互に精神医学の基礎的知識から最先端の情報までを幅広く講義している。

モーニング・カンファレンス

毎週金曜日の朝に、専攻医が受け持ち患者の症例提示や興味を持ったことについての発表を行い、指導医を交えて検討会を行っている。

新入院報告会

毎週水曜日の医局会後に、1 週間で専攻医が受け持った入院患者について、簡単にプレゼンテーションをしてもらい、医局全員が把握する機会を持っている。

症例検討会

月1回、水曜日の新入院報告会後に行い、多くの指導医を交えて、困っている症例などについて症例検討を行っている。

院内カンファレンス

アルコール・薬物関連問題勉強会（ひみこクラブ）、児童思春期症例検討会（ひよこクラブ）、認知症勉強会などが定期的に行われている。

肥前セミナー

1986年から年に数回、国内外の著名人を招いて講演会を開催しています。毎回院内外から100名程度の参加がある。

肥前精神医学セミナー

2012年度より、全国の初期研修医、後期研修医等を対象に2日間の研修会を開催している。全国の若い医師が当院に集まり、意見交換と親睦を図ることを目的にしている。精神科分野の様々なレクチャーを受け、著名な医師から直接講義を受けることができる。

先端精神医学セミナー

2013年度より最新のトピックスを中心に医師の関心のあるテーマについて、国内外から講師を招いて講演を行っている。

各種研修会

基幹施設では、院外からも講師を招いて「認知症高齢者対策研修」、「アルコール薬物関連問題研修会」、「行動療法研修会」、「精神科看護研修」、「CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修」、「司法精神医学研修会」、「ブリーフ・インターベンションワークショップ」などの全国規模の研修会を毎年開催している。こうしたプログラムにも予め受講希望を申し出れば、参加が可能である。

臨床研究部

神経画像研究室、生化学・精神薬理研究室、高次脳機能研究室、行動生理研究室、心理研究室、司法精神医学研究室、社会精神医学研究室があり、専攻医も興味のある研究室で臨床を行いながら、研究を行うことができる。

その他

司法精神医学専門研修コースを選択した専攻医でなくても、副主治医として最先端の精神医学の研修や精神鑑定などの助手を行うことができる（鑑定も主に責任能力を評価する鑑定と、医療の必要性・処遇を決定するものまで、種々に行っている）。

年間スケジュール

4月	新入医局員・研修医オリエンテーション CRAFT（依存症家族支援）研修 「お母さんの学習室」第一期開催
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本司法精神医学会参加 日本老年精神医学会参加 医療安全研修会 CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修 1回目
7月	ブリーフインターベンション&HAPPY プログラム研修会 1回目 国立病院機構精神科レジデントフォーラム参加 精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会 チーム医療研修「強度行動障害医療研修」
8月	精神看護研修 司法精神医療等人材養成研修
9月	「お母さんの学習室」第二期開催 医療安全研修会 強度行動障害を伴う発達障害チーム医療研修
10月	佐賀県精神科集談会参加 肥前精神医学セミナー CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修 2回目 日本児童青年精神医学会参加 アルコール・薬物依存関連学会参加 院内感染対策研修会 虐待防止研修会 司法精神医療等人材養成研修
11月	認知症ケア研修 九州精神神経学会参加 国立病院総合医学会参加 日本臨床神経生理学会参加
12月	依存症に対する集団療法に係る研修（薬物） 佐賀県精神科集談会参加 院内感染対策研修会 ブリーフインターベンション&HAPPY プログラム研修会 2回目 司法精神医療等人材養成研修
1月	全国児童青年精神科医療施設協議会参加 アルコール依存症研修
2月	医療倫理研修 精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会 メンタルヘルス研修
3月	佐賀県精神科集談会参加 九州地区重症心身障害研究会参加 司法精神医学研修 佐賀県かかりつけ医認知症対応力向上研修会

その他	肥前セミナー（年数回）
	先端精神医学セミナー（年数回）
	国立病院機構精神医学講義（基礎講座、応用講座）（週 1 回）
	モーニングカンファレンス（週 1 回）
	認知症多職種勉強会（月 2 回）
	児童グループモーニングカンファレンス（週 1 回）
	アルコール薬物関連問題勉強会（ひみこクラブ）（月 1 回）
	BI（ブリーフインターベンション）&HAPPY 勉強会（月 1 回）
	刑事鑑定カンファレンス（随時）
	佐賀大学臨床実習（隔週）
	九州大学クリニカルクラークシップ（年 1～2 回）
	DPAT 研修会
	BLS 講習会

※新型コロナウイルス感染対策のため、中止されることがあります。

時期は年度によって調整されるものもありますのでご了承ください。

連携施設の予定表は別紙を参照

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

医 師 : 上野雄文、村川亮、會田千重、本村啓介、岩永英之、瀬口康昌、
遠藤光一、三好紀子、森松友佳子、山元美和子、大坪建、石井博修、
國武裕、村山桂太郎、藤瀬昇、堀輝、山口博之、佐久間寛之、
三浦智史、門司晃、實松寛晋、梶谷康介、奥栄作、栗田晋、石丸正吾、
石川謙介、小嶋享二、堤あき子、磯村周一、福治康秀、松坂雄亮、
帆秋伸彦、橋本聡

看 護 師 : 寺田恵美、岡田世志美、濱恵、興梠嘉彰

作 業 療 法 士 : 塚原宏恵

精神保健福祉士 : 平川孝子

心 理 療 法 士 : 天野昌太郎

事 務 : 北島信人

・プログラム統括責任者 上野雄文

・連携施設における委員会組織

研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理し、改善を行う。

5. 評価について

1) 評価体制

専攻医に対する指導内容は、統一された専門研修記録簿に時系列で記載して、専攻医と情報を共有するとともに、プログラム統括責任者（上野雄文）およびプログラム管理委員会（4に記載したメンバー）で定期的に評価し、改善を行う。

2) 評価時期と評価方法

3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。その際の専攻医の研修実績および評価には「研修実績管理システム」を用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修実績管理システム」に研修実績を入力し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

専攻医研修マニュアル（別紙）

指導医マニュアル（別紙）

・ 専攻医研修実績記録

「研修実績管理システム」に研修実績を入力し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「更に努力を要する」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

基幹施設の就業規則に基づき勤務時間あるいは休日、有給休暇などを与える。

勤務（日勤） 8：30～17：30（休憩60分）

当直勤 17：15～翌8：30

休日 ①土日曜日②国民の祝日

年間公休数は別に定めた計算方法による

年次有給休暇を規定により付与する

その他

慶弔休暇、産前産後休業、介護休業、育児休業など就業規則に規定されたものについては請求に応じて付与できる。

院内保育園があり、自然の中でのびのびとした保育が行われ、男性医師、女性医師ともに利用しながら研修を行うことができる。

それぞれの連携施設においては各施設が独自に定めた就業規定に則って勤務する。ただし自己学習日についてはいずれの施設においても出勤扱いとする。

2) 専攻医の心身の健康管理

安全衛生管理規定に基づいて一年に2回の健康診断を実施する。検診の内容は別に規定する。産業医による心身の健康管理を実施し異常の早期発見に努める。

3) プログラムの改善・改良

基幹施設では、毎月第4水曜に卒後臨床研修委員会を行い、研修内容について論議する。毎年度9－10月及び2－3月に専攻医に研修に関するアンケートを行い、その中に指導医の指導方法や内容についての項目を設ける。アンケートの結果は、個人名を匿名化し専攻医が不利益を被らないように十分に配慮した上で、卒後臨床研修委員会にて検討を行い、改善を行う。検討を行う際に、研修施設群内における連携会議を定期的に開催し、問題点の抽出と改善を行う。

専攻医からの意見や評価を専門医研修プログラム管理委員会の研修委員会で検討し、次年度のプログラムへの反映を行う。

4) FDの計画・実施

毎月行われる卒後臨床研修委員会にて、指導医に専攻医指導において工夫したことを提示し、指導医同士の研鑽を図る。

研修指導医には日本専門医機構が実施しているコーチング、フィードバック技法、振り返りの促しなどの技法を受講させる。研修基幹施設のプログラム統括管理責任者は、研修施設群の専門研修指導医に対して講習会の修了やFDへの参加記録などについて管理する。

(別紙)

連携施設週間スケジュールおよび、年間予定表

※いずれの施設においても、就業時間が 40 時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

1. 佐賀県医療センター好生館

週間スケジュール							
	8:30		12:30	13:30	14:30	15:30	16:30
月曜日	再診外来			コンサルテーション・リエゾン	緩和ケアサポートチーム カンファレンス・回診		症例検討会
火曜日	新患予診・本診			コンサルテーション・リエゾン		レクチャー①	レポート作成
水曜日	外来陪診			コンサルテーション・リエゾン		指導医による 症例指導	レポート作成
木曜日	再診外来			緩和ケア病棟カ ンファレンス	コンサルテーション・リエゾン		心理検査スー パービジョン
金曜日	新患予診・本診			コンサルテーション・リエゾン		レクチャー②	

年間スケジュール

	院内		県内	県外
4 月	オリエンテーション			
5 月				
6 月		前年度研修実績報 告書提出		日本精神神経学会参加・ 発表
7 月			佐賀県精神科集談会参 加	
8 月				
9 月				
10 月			佐賀県精神科集談会発 表	
11 月				九州精神神経学会参加・ 発表
12 月	院内学会発表		佐賀県精神科集談会参 加	
1 月				
2 月				
3 月	総括的評価	研修プログラム評 価報告書の作成	佐賀県精神科集談会参 加	

2. 佐賀大学医学部附属病院精神科

週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	09:30入院カンファレンス 11:00回診	新患予診	09:30リエゾンカンファレンス 10:00症例検討会 11:00医局会	新患予診	新患予診
午後	12:00向精神薬研究会 12:30抄読会	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

年間スケジュール

年間スケジュール	
4月	新入医局員オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本司法精神医学会参加 日本老年精神医学会参加
7月	佐賀県精神科集談会参加
8月	
9月	
10月	佐賀県精神保健指定医研修会開催 日本児童青年精神医学会参加 アルコール・薬物依存関連学会参加
11月	九州精神神経学会参加 日本臨床神経生理学会参加
12月	佐賀県精神科集談会参加
1月	
2月	向精神薬フォーラム in SAGA 参加
3月	佐賀県精神科集談会参加 九州地区重症心身障害研究会参加

3. 九州大学医学部附属病院精神科

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30-9:00		病棟カンファ 抄読会			
9:00-12:00	病棟医長回診 病棟業務	外来予診 リエゾン	病棟業務	外来予診 リエゾン	病棟業務
13:00-16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	教授回診	病棟業務
16:00-18:00	チームカンファ	病棟業務	論文輪読会	医局会	病棟業務
18:00-20:00	行動療法カンファ		精神分析セミナー	精神医学セミナー (不定期)	

年間スケジュール

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 、 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出 、 研修医グラウンドラウンド (毎月開催)
5月	教室研究会参加 福岡精神科集談会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加 (任意)
7月	日本うつ病学会参加 (任意)
8月	九州地区 11 大学合同研修会
9月	福岡精神科集談会参加 日本生物学的精神医学会参加 (任意)
10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 教室研究会参加 日本児童青年医学会参加 (任意) 日本認知・行動療法学会参加 (任意)
11月	九州精神神経学会参加・演題発表
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	福岡精神科集談会参加
2月	日本不安症学会参加 (任意)
3月	SR1・2・3 研修報告書 、 研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会 (任意)

4. 熊本大学病院神経精神科

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00～	病棟業務	病棟グループ・ リエゾンカンファ レンス ECT	外来陪席・ 予診	外来陪席・ 予診	思春期専門外来 陪席・予診 ECT
13:00～	病棟業務 リエゾン	病棟カンファレ ンス、回診	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン	病棟業務 リエゾン
夕方以降	認知症カンファ (16:00～) 精神科セミナー (第4, 19:00～)	症例検討会 (必要時随時)			
原則として、40 時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。					

年間スケジュール

4 月	新入医局員オリエンテーション (約 2 週間)
5 月	精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会
6 月	日本精神神経学会総会参加、日本老年精神医学会参加 (任意) 認知症ケア学会参加 (任意)
7 月	熊本精神神経学会参加・演題発表、日本うつ病学会参加 (任意)
9 月	日本神経心理学会参加 (任意)、IPA International Congress 参加 (任意)
10 月	研修中間報告書提出、日本認知症学会参加 (任意) Asian Society Against Dementia 参加 (任意) 日本児童青年期精神医学会参加 (任意)
11 月	九州精神神経学会参加・演題発表、日本高次脳機能障害学会参加 (任意)
12 月	研修プログラム管理委員会開催
2 月	熊本精神神経学会参加・演題発表
3 月	日本社会精神医学会 (任意) 日本正常圧水頭症学会 (任意) 専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	精神科臨床セミナー (毎月 1-2 回・月曜 18:30～) リサーチミーティング (毎月第 1 月曜 18:00～) 認知症疾患医療センター症例検討会 (毎月第 2 土曜 15:00～)

5. 福岡大学医学部附属病院精神科

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30~9:30	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス	病棟 カンファレンス
9:30~12:00	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟診療
	チーム ミーティング	閉鎖病棟 カンファレンス	デイケア	デイケア	チーム ミーティング
13:00~17:30	病棟回診	病棟診療	病棟診療	病棟診療	病棟 コミュニティ ミーティング
	症例検討会	リエゾン回診			病棟診療 or 病棟診療
	外来 カンファレンス				
	リエゾン カンファレンス				
	医局会				
	抄読会				

年間スケジュール

4 月	オリエンテーション
5 月	福岡精神科集談会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7 月	日本うつ病学会参加（任意）
8 月	
9 月	福岡精神科集談会参加 日本臨床精神神経薬理学会学術集会（任意） 日本自殺予防学会（任意）
10 月	
11 月	
12 月	九州精神神経学会参加・発表
1 月	医局年始研究会参加
2 月	福岡精神科集談会参加
3 月	医局年度末研究会発表 日本社会精神医学会（任意）

6. 国立病院機構 賀茂精神医療センター

週間スケジュール

週間予定表(法と精神医学以外)					
	月	火	水	木	金
午前	・医局ミーティング ・入院、退院、紹介患者の動向 ・ミニカンファレンス	・医局ミーティング ・入院、退院、紹介患者の動向 ・ミニカンファレンス	・医局ミーティング ・入院、退院、紹介患者の動向 ・ミニカンファレンス	・医局ミーティング ・入院、退院、紹介患者の動向 ・ミニカンファレンス	・医局ミーティング ・入院、退院、紹介患者の動向 ・ミニカンファレンス
	デイケア OT 病棟	OT 外来	デイケア OT 病棟 副院長回診	デイケア OT 病棟	・コメディカル部門ミーティング ・コメディカル連携ミーティング
午後	・管理、診療会議(2回/月) ・行動制限委員会(2回/月)	OT 訪問診療 第4火曜日 回復期閉鎖病棟治療会議 第3火曜日 退院支援全体会議 第4火曜日 宿泊体験室運営会議	デイケア OT 病棟	デイケア OT 病棟 第2木曜日 回復期開放病棟治療会議 第1木曜日 家族会幹事会	毎週金曜日 急性期治療評価会議 第3金曜日 認知・高齢者病棟治療評価会議 NSTラウンド
	デイケア OT 病棟 第3月曜日 ICTミーティング		・医薬品情報カンファレンス ・医局カンファレンス		

週間予定表(法と精神医学)					
	月	火	水	木	金
午前	・医局ミーティング ・入院、退院、紹介患者の動向 ・ミニカンファレンス	・医局ミーティング ・入院、退院、紹介患者の動向 ・ミニカンファレンス	・医局ミーティング ・入院、退院、紹介患者の動向 ・ミニカンファレンス	・医局ミーティング ・入院、退院、紹介患者の動向 ・ミニカンファレンス	・医局ミーティング ・入院、退院、紹介患者の動向 ・ミニカンファレンス
	医療観察法病棟 OT 医療観察法病棟	OT 外来	医療観察法病棟 OT 医療観察法病棟 副院長回診	医療観察法病棟 OT 医療観察法病棟	医療観察法病棟 OT 医療観察法病棟
午後	・管理、診療会議(2回/月) ・行動制限委員会(2回/月)	治療プログラム ケア会議 CPA会議 第4火曜日 宿泊体験室運営会議	第1水曜日 倫理運営会議 第2、4水曜日 病棟会議 第3水曜日 治療プログラム検討会議	治療プログラム ケア会議 CPA会議	治療プログラム ケア会議 CPA会議
	医療観察法病棟 治療会議 病棟		・医薬品情報カンファレンス ・医局カンファレンス		

年間スケジュール

年間スケジュール	
4月	新採用医師オリエンテーション 接遇研修 ICT公開研修会
5月	NST公開研修会 メンタルヘルス研修
6月	CVPPP研修(4日) 院内感染対策研修 ICT公開研修会 日本精神神経学会学術総会参加 日本司法精神医学会参加 日本老年精神医学会参加 認知症研修
7月	NST公開研修会 国立病院機構精神科レジデントフォーラム参加 医療観察法関連職種研修会参加
8月	摂食・嚥下障害のある患者の援助研修 精神科医療における法と倫理の研修 ICT公開研修会
9月	一次救命措置研修(2回) NST公開研修会 精神福祉法に関する研修
10月	CVPPP研修(4日) 一次救命措置研修(3回) 院内感染対策研修 ICT公開研修会 日本児童青年精神医学会参加 アルコール・薬物依存関連学会参加
11月	医薬品の適正管理研修 NST公開研修会 作業安全研修会 国立病院総合医学会参加 障害者総合支援法における社会資源についての研修
12月	ICT公開研修会 障害者虐待防止法に関する研修会 SS活動研修
1月	医療ガス研修 NST公開研修会
2月	ICT公開研修会
3月	NST公開研修会
その他	賀茂東広島地区精神科医学会学術講演会・研修会(毎月)参加 心理研修プログラム(患者向け)5月・6月で4回、9月・10月で4回、1月・2月で4回 心理研修プログラム(家族向け)5月～8月で4回、10月～1月で4回 国立病院機構精神医学講義(基礎講座、応用講座)(週1回)

7. 国立病院機構 さいがた医療センター

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前 8時30分～ 12時	外来診療	8:00～Dr ミーティ ング 病棟診察	外来診療	外来診療	外来診療
午後 13時～17時	クロザリルカ ンファレンス	病棟診察 病棟カンファレン ス 病棟レク	外来診療	研修カンファ レンス	AI 集団精神療 法 病棟診察
17時以降		Dr カンファレンス 行動制限検討委員会 精神科安全推進委員 会			

* 週40時間を超える研修については任意参加

年間スケジュール

4 月	オリエンテーション 専門医 1 年目 研修開始 専門医 2 年目以降 研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5 月	新人研修会
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	日本うつ病学会参加（任意）
8 月	新人フォローアップ研修会
9 月	研修ヒアリング
10 月	研修中間報告書提出
11 月	日本アルコール・アディクション医学会学術総会参加（任意）
12 月	新人フォローアップ研修
1 月	関東甲信越アルコール関連問題学会参加（任意）
2 月	研修ヒアリング
3 月	研修報告書作成・提出 研修プログラム評価報告書の作成 まとめ・振り返り

8. 八幡厚生病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9 : 00 ~ 12 : 00	依存症ミー ティング	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務
13 : 00 ~ 17 : 00	病棟業務 デイケア業 務	病棟業務 老健回診	病棟業務 デイケア業 務	訪問看護同 行	病棟業務 医局カンファ レンス 抄読会
14 : 00 ~ 15 : 00 会議等	退院支援委 員会（該当 病棟）	医療安全管 理委員会 （第3火 曜）	行動制限最 小化委員 会（第3 水曜）	院内感染対 策委員会 （第4木 曜）	クロザリル委 員会（第2金 曜）

年間スケジュール

4 月	オリエンテーション 春季特別研修プログラム（産業医科大学主催）参加
5 月	県精神科集談会参加・市精神科集談会参加
6 月	日本精神神経学会学術総会参加
7 月	市精神科集談会参加
8 月	
9 月	中間ヒヤリング 県精神科集談会参加、市精神科集談会参加
10 月	
11 月	市精神科集談会参加
12 月	
1 月	市精神科集談会参加
2 月	
3 月	市精神科集談会参加 最終ヒヤリング、研修プログラム評価報告書作成

9. 若久病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス
9:00-12:30	外来診療・予診 病棟業務	外来診療・予診 病棟業務	外来診療・予診 病棟業務	外来診療・予診 病棟業務	外来診療・予診 病棟業務
13:30-17:00	九州中央病院 リエゾン or デイ・ケア、SST	病棟業務 音楽療法 訪問看護	医局会 症例検討会 病棟業務	病棟業務 デイ・ケア 訪問看護	病棟業務 音楽療法
17:00-19:00	指導医、先輩 医師との ディスカッション	精神医学を問う (不定期)	行動療法勉強会 (不定期)	精神療法症例 検討会	指導医、先輩 医師との ディスカッション

年間スケジュール

4 月	・オリエンテーション ・研修開始 ・前年研修報告書提出 ・指導医の指導実績報告提出 ・研修医研修医のグラウンドラウンド（毎月実施） ・院内全体症例検討会参加（毎月開催）
5 月	・福岡精神科集団会参加 ・急性期病棟家族心理教育参加
6 月	・日本精神神経学会学術総会参加 ・病院家族会参加 ・日本老年医学会参加（任意）
7 月	・日本うつ病学会参加（任意）
8 月	・急性期病棟家族心理教育参加 ・九州地区 11 大学合同研修会（任意）
9 月	・福岡精神科集団会参加 ・日本生物学的精神医学会（任意）
10 月	・研修中間報告書提出 ・日本児童青年医学会参加（任意） ・日本認知症・行動療法学会参加（任意）
11 月	・九州精神神経学会参加 ・急性期病棟家族心理教育参加
12 月	・研修プログラム管理委員会開催 ・病院忘年会参加
1 月	・若久集談会参加（演題発表） ・福岡精神科集談会参加 ・医局新年会参加
2 月	・急性期病棟家族心理教育参加
3 月	・研修報告書 ・研修プログラム評価報告書の作成 ・日本統合失調症学会（任意）

10. 蒲池病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	院長病棟回診同行 外来診療	症例検討会 外来・病棟診療	外来・病棟診療	医局会 (症例検討会)	児童思春期モーニングミーティング 外来・病棟診療
13:00～17:00	外来・病棟診療	外来・病棟診療	院長診察陪席	外来・病棟診療	外来・病棟診療
14:00～15:00 会議等					

年間スケジュール

4 月	オリエンテーション
5 月	精神医学概論、法規、倫理
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 診断学、症候学概論(Ⅰ)
7 月	診断学総論(Ⅱ)、心理検査・画像等
8 月	各論(Ⅰ) 統合失調症(F2)
9 月	中間ヒヤリング 各論(Ⅱ)器質性、物質使用(F0、F1)
10 月	各論(Ⅲ) 気分障害(F3) 学会参加
11 月	各論(Ⅳ)神経症・ストレス(F4) 学会参加
12 月	各論(Ⅴ) 児童思春期(F8、F9)
1 月	治療学(薬物療法、認知療法、作業療法)
2 月	精神保健・福祉・医療の動向
3 月	最終ヒヤリング 司法精神医学医療

1 1. みなかぜ病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	病棟業務	外来再診(陪席)	病棟業務	外来再診(陪席)	病棟業務
13:00～17:00	専門外来 (予診・陪席)	集団精神療法 外来初診	社会復帰プログラム 指導医レクチャー	病棟業務 デイケア業務	病棟業務 訪問看護
会議等	医療安全管理委員 (第2月曜)	医局カンファレンス (毎週火曜)	退院検討委員会 (第2水曜)	行動制限最小 化委員会(第1 木曜)	病棟カンファレンス (該当病棟)

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	糸島医師会研修会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	糸島医師会研修会参加
8月	
9月	・ 中間ヒヤリング ・ 日本認知症学会参加
10月	糸島医師会研修会参加
11月	糸島医師会研修会参加
12月	九州精神神経学会参加
1月	福岡精神科集談会参加
2月	糸島医師会研修会参加
3月	最終ヒヤリング

その他：希望により院内研修（医療安全、院内感染、褥瘡等各種研修会）に参加する。

12. 嬉野温泉病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	新患（予診）		新患（予診）	療養病棟カンファ	新患（予診）
	新患（陪席）	デイケア診察	新患（陪席）		新患（陪席）
午後				精神科診療会議	
		専門外来陪席 （児童思春期）	訪問診療同伴		
	医局会、精神科 Dr カンファ			思春期勉強会	

* 空欄は病棟業務（急性期、療養）

* 第1土曜日は午前中のみ出勤。主に研修会、家族会など開催。

年間スケジュール

4月	開院記念日
5月	
6月	西日本芸術療法学会 日本精神神経学会
7月	
8月	新入社員向け精神科講義
9月	
10月	秋祭り
11月	九州精神神経学会
12月	
1月	
2月	
3月	美術館祭（芸術療法体験）

* 年数回、佐賀精神科集談会

13. 雁の巣病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟カンファ レンス mECT	病棟カンファ レンス 病棟・外来業 務	病棟カンファ レンス mECT	病棟カンファ レンス 病棟・外来業 務	病棟カンファ レンス mECT	病棟・外来業 務
午後	病棟・外来業 務	病棟・外来業 務	病棟・外来業 務	病棟・外来業 務	病棟・外来業 務	
5 時以降	医局会議 抄読会					

※当直（月 4～5 回、土日の日直 1～2 回を含む）

※上記のうち週 4.5 日勤務

年間スケジュール

4 月	オリエンテーション 精神保健福祉法 院内研修 福岡精神科救急病棟医療研究会
5 月	基礎的なクルズを開始
6 月	日本精神神経学会学術総会 参加
7 月	
8 月	日本うつ病学会（任意）
9 月	日本アルコール関連問題学会（任意）
10 月	日本精神科救急学会 参加および発表
11 月	
12 月	九州精神神経学会 発表
1 月	
2 月	
3 月	日本統合失調症学会（任意） 院内症例発表会

14. 神野病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	外来診療 デイケア	外来診療 デイケア	外来診療 デイケア	外来診療 デイケア	外来診療 デイケア
13:00～14:00 会議等	行動制限最小化委員会	感染対策委員会/第3 医療安全対策委員会/第4	医局会議/毎週 症例検討		
14:00～17:00	病棟カンファレンス 入院診療	病棟カンファレンス 入院診療	病棟カンファレンス 入院診療 レクチャー・レポート作成	病棟カンファレンス 入院診療	入院診療 レクチャー・レポート作成

年間スケジュール

院内		
	オリエンテーション	
5月		
6月	日本精神神経学会学術総会参加	臨床セミナー
7月		
8月		
9月	中間ヒヤリング	
10月		臨床セミナー
11月	九州精神神経学会参加	臨床セミナー
12月		院内研究発表会
1月		臨床セミナー
2月		
3月	最終ヒヤリング	

15. 国立病院機構 九州医療センター

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30-8:40	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
8:40-12:00	病棟業務 外来予診	病棟業務 外来予診	病棟業務 外来予診	病棟業務 外来予診	病棟業務 外来予診
13:30-14:00	昼カンファ	昼カンファ	昼カンファ	昼カンファ	昼カンファ
14:00	研究会発表 予行抄読会	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
15:30-17:15	病棟業務	医長回診			医長回診

年間スケジュール	
4月	オリエンテーション
5月	教室研究会参加/福岡精神科集談会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	福岡精神科集談会参加 精神身体合併症研究会参加・演題発表
10月	教室研究会参加
11月	九州精神神経学会参加・演題発表
12月	
1月	福岡精神科集談会参加
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成 精神身体合併症研究会参加・演題発表

16. 福岡県立精神医療センター太宰府病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察	外来診察
9:00-12:00	外来診察・ 病棟業務	外来診察・ 病棟業務	外来診察・ 病棟業務	外来診察・ 病棟業務	外来診察・ 病棟業務
13:00-16:00	薬物研修	病棟業務 研修医講義	病棟業務	病棟業務 研修医講義	医局会 入退院カン ファレンス
16:00-18:00	司法精神医 学等研究会	病棟業務	病棟業務 研修医講義	病棟業務	レジデントカ ンファレンス
18:00-20:00					

年間スケジュール

4月	新入職者オリエンテーション（医療安全教育、保険診療等）
5月	福岡精神科集団会
6月	日本精神神経学会学術会参加
7月	
8月	
9月	
10月	日本精神科救急学会参加・演題提出 福岡精神科集団会開催
11月	
12月	九州精神神経学会参加・演題提出
1月	
2月	
3月	

17. 医療法人光風会 光風会病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:50～9:00	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング	ミーティング
9:00～12:30	外来診療 デイケア診療	入院診療	外来診療 デイケア診療	入院診療	入院診療 12:30～13:30 医局会
13:30～17:15	入院診療	入院診療	入院診療	入院診療	入院診療

年間スケジュール

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	中間ヒアリング
10月	
11月	九州精神神経学会参加
12月	
1月	
2月	
3月	最終ヒアリング 院内研究発表会

18. 国立病院機構 小倉医療センター

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30～9:00	病棟業務	病棟業務	(外勤)	病棟業務	病棟業務
9:00～12:00	ECT	外来(再診)		病棟業務	外来(新患)
13:00～16:00	病棟業務	病棟業務、 医長回診		病棟カンファレンス(30分) 医局カンファレンス(60分)	病棟業務
16:00～17:30	ミニカンファレンス(任意)	病棟業務			ミニカンファレンス(任意)

- ・ 外勤日は月、火、水のいずれか
- ・ 電気けいれん療法（ECT）実施は、月、水、金を3名の専攻医で分担
- ・ リエゾンは病棟業務の時間帯に適宜振り分け
- ・ 外来（新患、再来）は病棟業務量に応じて調整
- ・ 医局カンファレンスは症例検討と抄読会を交互に行う

年間スケジュール

4月	オリエンテーション、指導医の指導実績報告提出 北九州精神科集談会（毎月）
5月	福岡精神科集談会
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本うつ病学会参加（任意）
8月	九州地区11大学合同研修会
9月	福岡精神科集談会参加
10月	研修中間報告書提出
11月	九州精神神経学会学術総会参加・演題発表 日本総合病院精神学会参加（任意）
12月	プログラム管理委員会
1月	福岡精神科集談会参加
2月	日本不安症学会参加（任意）
3月	研修プログラム評価報告書の作成 小倉医療センター医局集談会参加・演題発表

19. 国立病院機構 琉球病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30-9:00		病床管理ミー ティング	医局会		
9:00-12:00	新患陪席 外来業務	クロザピン治 療陪席	病棟業務	新患陪席外来 業務	病棟業務
13:00-16:00	病棟業務	医療観察法治 療評価会議	病棟業務	病棟業務	国立病院機構 精神医学講義
16:00-17:15	院内クルズ ス	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
18:00-20:00				症例検討会	

年間スケジュール

月	内容
4 月	研修開始 、 オリエンテーション 指導医の指導実績報告提出
5 月	地域医療アルコール研修会 、 CVPPP(包括的暴力防止プログラム)研修会 日本医療開発機構 (AMED) 研究班参加
6 月	日本精神神経学会参加・演題発表 、 日本司法精神医学会参加・演題発表
7 月	国立病院機構精神科レジデントフォーラム参加・演題発表 医療観察法関連職種研修会参加・演題発表 、 全国 DPAT 先遣隊研修会
8 月	児童・思春期のアディクション研修会 内閣府主催合同防災訓練 (DPAT 先遣隊参加)
9 月	CVPPP(包括的暴力防止プログラム)研修会
10 月	研修中間報告書提出 アルコール・薬物依存関連学会参加・演題発表
11 月	CRAFT 研修会 、 国立病院総合医学会参加・演題発表
12 月	沖縄県 DPAT 研修会研修プログラム管理委員会
1 月	ブリーフインターベンション・HAPPY プログラム研修会 日本医療開発機構 (AMED) 研究班参加
2 月	沖縄県精神神経学会参加・演題発表 、 全国 DPAT 先遣隊合同演習参加
3 月	研修報告書・研修プログラム評価報告書作成・提出 九州地区重症心身障害研究会参加・演題発表

20. 長崎県精神医療センター

週間計画

	月	火	水	木	金
午前	外来診療 病棟業務 電気けいれん 療法	外来診療 病棟業務	外来診療 病棟業務 電気けいれん 療法	外来診療 病棟業務	外来診療 病棟業務 電気けいれん 療法
午後	入退院カンフ ァレンス 病棟業務 急患対応 医局会(月2 回)	病棟業務 急患対応	病棟業務 急患対応 医療観察法病 棟・倫理運営 会議(月2回)	病棟業務 急患対応	病棟業務 急患対応

年間計画

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術集会
7月	
8月	
9月	
10月	日本精神科救急学会 日本児童青年精神医学会
11月	九州山口県立病院連絡協議会
12月	九州精神神経学会 長崎県精神科集談会
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告

2 1. 帆秋病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	全体カンファレンス (入退院カンファレンス、症例検討等)	全体カンファレンス (入退院カンファレンス、患者相談窓口カンファレンス症例検討等)	全体カンファレンス (入退院カンファレンス、症例検討等)	全体カンファレンス (入退院カンファレンス、症例検討等)	全体カンファレンス (入退院カンファレンス、症例検討等)
9:00-12:00	病棟業務	外来診療	病棟業務	病棟業務	デイケア
13:00-17:30	病棟業務	外来診療	病棟業務	病棟業務	作業療法

年間スケジュール

4 月	オリエンテーション、医療安全研修会 (MRI 安全講習)
5 月	日本精神神経学会制作「精神科医療の基本」DVD 研修会
6 月	日本精神神経学会学術総会参加 (任意)、日本老年精神医学会 (任意) 久里浜医療センターアルコール依存症臨床医等研修参加 (任意)
7 月	医療倫理・医療安全・感染対策セミナー (e ラーニング受講)
8 月	医療倫理・医療安全・感染対策セミナー (e ラーニング受講)
9 月	県集会参加(任意)
10 月	県集会参加(任意) アルコール・薬物依存関連学会参加(任意)
11 月	九州精神神経学会参加 (任意) 久里浜医療センターアルコール依存症臨床医等研修参加 (任意)
12 月	同門会参加 (任意)
1 月	認知療法・認知行動療法に関する研修 (任意)
2 月	ECT 講習会 (任意)
3 月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

2.2. 国立病院機構 熊本医療センター 精神科

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
9 : 00～	外来予診 病棟業務	救急外来予 診 病棟業務	病棟業務	救急外来予 診 病棟業務	外来予診 病棟業務
14 : 00～	病棟業務	病棟業務	病棟カンフ ァレンス	病棟業務	病棟業務
夕方以降			自傷行為再 企図防止ミ ーティング		症例検討会

年間スケジュール

4 月	新入医局員オリエンテーション（約 1 週間） 新任医師宿泊研修会
5 月	熊本脳神経疾患懇話会・演題発表
6 月	日本精神神経学会総会参加（任意） 熊本脳神経疾患懇話会・演題発表 救急症例検討会・演題発表
7 月	熊本精神神経学会参加・演題発表
8 月	
9 月	熊本脳神経疾患懇話会・演題発表
10 月	熊本脳神経疾患懇話会・演題発表 日本精神科救急学会参加（任意）
11 月	九州精神神経学会参加・演題発表 熊本脳神経疾患懇話会・演題発表 日本総合病院精神医学会参加（任意）
12 月	
1 月	熊本医療センター医学会・演題発表
2 月	熊本精神神経学会参加・演題発表 熊本脳神経疾患懇話会・演題発表
3 月	